

●しゃらくかい

写楽同会

令和2年3月31日 51

<http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>

投稿/投票宛先; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2020 Sharakukai

弥生兼題「芽」 出題：読者HSさん

写真俳句



1 庭いっぱい陽射しにかかる木の芽雨

時々さっと降ってきました。



2 ようように時ぞと芽吹く辛夷 (こぶし) かな

長い冬も終わりようやく時が来た、と言っているようなシデ辛夷でした。



3 さらさらとせせらぎ撫でし木の芽風

柔らかな春風に水の流れも柔らかに。



水仙は流線形で出現す

4 水仙は流線形で出現す

両手を合わせたような姿の発芽です。
草花の生命力、勢いには驚かされます。



花の芽が一夜で開く暖かさ

5 花の芽が一夜で開く暖かさ



もの
の芽や
コロナ禍の世を
知らぬげに

6 ものの芽やコロナ禍の世を知らぬげに



7 木の芽時早や開き切る薄桃花

紅辛夷（べにこぶし）ですが、木の芽と季重ねになるので薄桃花としてみました。



8 落の芽を貰って開くレシピ本

落の臺いただきました。てんぷら以外にどんな食べ方がいいかな？

俳句

1 雨後の池水面耀き蓮芽吹く

雨上がり、陽射しを受けて緑が耀き始めました。

2 物忘れ 昨日も今日も木の芽時

時候のせいばかりでなく、ボケの始まりのようですが・・・

3 ふんわりと若草色や芽ぶく庭

木々の先がふわっとしてる様子を表したかった。

4 雨だれのリズムに合わせ木の芽吹く

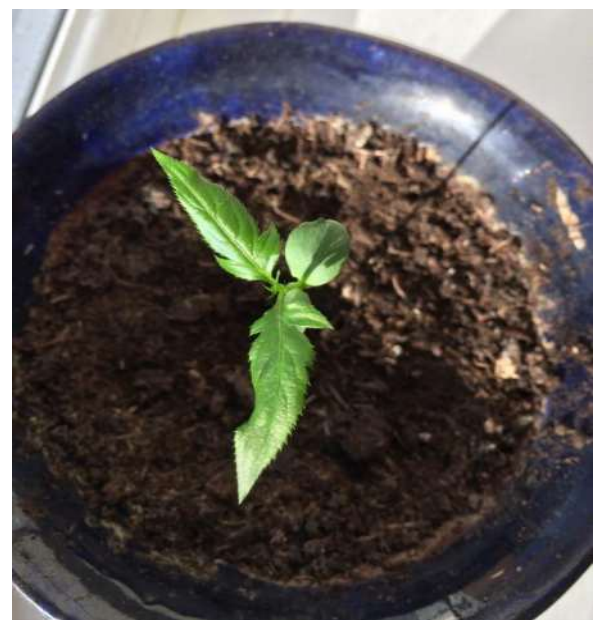
氷柱からポタリ、ポタリと雨だれが落ちていました。その下で木々が芽吹き始めました。

5 人生の芽コロナウィルスでゼロゼロ

アメリカ大統領選サンダース候補。

6 ウォーキング歩幅広がる木の芽晴れ

寒い冬控えていた散歩を再開・・・



食べた梨の種を蒔きました。

撮影: 北切雀

7 胎児はや三十センチ春うらら

8 ホワイト茶 (ティー) かほり甘やか春の午後

葉を広げる前の茶の芽を摘み取ったのが、ホワイト・ティー。

短歌

昼寝覚

諸ともにあれれと思うヤジ一つ 罵詈雑言とは知る人もなし

由良の門を渡って来るクルーズ船 行方も知らぬコロナの道かな

高砂の尾上の桜見る会の 国会答弁一つも分からん

準坊



ナカムラと我が子に名付けアフガンの
民は心に医師の名刻む

ナカムラと
我が子に名付け
アフガンの
民は心に
医師の名刻む

※写真はネットより拝借。

北切雀

色褪せた造花の芽吹き桃の枝

母娘 (おやこ) 二代の雛もくすみて

イギリスでは梅も桃も生花は勿論、造花も見かけません。
帰国された方に頂いた造花が毎年登場します。



川柳

準坊

ヤジ総理トランプしのぐ品のなさ

又反省のないヤジ発言。サルでも学習するのに。

マスコミに突かれ気づく緊張感

政府の新型ウイルス対策にストレス溜まる。

北切雀 **風流なイメージ変屋形船**

おつな遊びがクラスター感染源。

写楽句会コロナの前からテレワーク

いつか集まってナマで句会をしたいですね。

流し雛コロナも一緒に流したい

が、流れても消滅せずどこかに漂着する。

第三次世界大戦敵コロナ

一日も早い収束を。

写真投稿

iSAMU 2点



東所沢農家の枝垂れ梅



枯れ葦

令和2年2月「暖房」（出題者：千泉）の作品と投票結果

<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

写真俳句 投票数：29

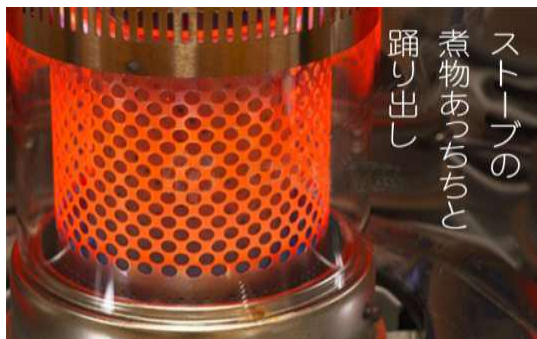
一席 **数知れぬ人の悲喜見し暖炉かな 千泉（7票）**

< 40～50年前のイギリス人の家は皆こんな感じでした。今は博物館になっています。 >



- * 古き暖炉のある部屋憧れますね。
- * 家族の中心で暮らしをまとめていた暖炉ですね。イギリスの家は建て増しとかはしないで、暮らしに合わせて転居するのが一般的です。この暖炉も何代もの家族とその暮らしを見てきたのでしょうか。
- * 所変われば品変わる、寒い季節が過ぎれば片付けられてしまう暖房器具と違って、歴史の長い家のなかに組込まれている暖炉はそこに暮らす人々を見守ってきたのでしょうか。日本でも囲炉裏の炉端で暖をとっていたころは同じ？懐かしいです。
- * 何年もリフォームして大切に使い続ける、イギリスの家ならではのですね。
- * 煙突掃除なる職業も有ったのでしょうかね。
- * ドキュメンタリーな画像と相まって、歴史を遡る様な臨場感が甦る句。
- * 懐かしく感じる写真です。暖炉の前でどんな人が過ごしたのかを想像するのが楽しいです。

佳作（令和2年2月号掲載順）



ストーブの煮物あっちちと踊り出し 準坊

< 今は煮物が出るストーブも少なくなってきましたね。 >

- * 温度が写ってる画像。煮物はおでんでしょうか？
- * 擬人化した表現が楽しくて面白い。部屋中にいい匂いが漂っているよう。



温き冬暖房抜けて猫遊ぶ iSAMU

< この猫の大群は世田谷豪徳寺の招き猫です。 >

- * これだけの集団になると夜は怖い？猫にはうれしい暖冬でしたね。
- * 招き猫の数に圧倒されますね。ご利益ありそうです。



ストーブに炭くべる師のほほ赤く 池福楼

< ダルマストーブ は教室の隅までは暖かくない。
火のそばの先生が羨ましかったものです。（借画） >

- * 懐かしい。石炭当番とかを思い出しました。作者さんは教室の隅の席でしたか？のっぽさんだったのですね。
- * 昔はこんなストーブでした。頬を赤く染めて炭をくべている先生の姿が想像できます。
- * 小学校の頃の教室を思い出します。



スマホ持ち睡魔に負けし暖房車 久芽

< 電車に座ってスマホ、多いですね、でもお尻辺りが暖かいといつの間にかウトウトと。 >

- * 車両デザインが物珍しいです。電車の振動は心地いい。スマホがあってもなくてもすぐ寝てしまうこの頃。
- * ほぼ全員スマホ持ってますね！
- * 朝の通勤風景でしょうか 乗り過ごさないでね。



寒風に落ち葉のたき火心サム 梵木

- * 季語が多すぎる～。
- * 最近では落ち葉のたき火も見られなくなりました。最後のサムとカタカナにしたのは？



こたつの上みかんの皮と新聞と 昼寝覚

< 一度こたつに入ると、すべて座ったままで済ましてしまいます。>

- * 「みかんの皮と」が「みかん二つと」はどうですかね。いづれにしても季重なりですね。
- * 二つに折った座布団の枕で、よく昼寝したものです。こたつとミカンの最強コンビには抵抗できない。
- * 誰もが共通する思いですよ～夕飯前に炬燵で寝てしまい母に起こされること度々でした。ですから我が家では、子供に炬燵が欲しいとせがまれても・・・置くことに躊躇です。



暖冬に当ての外れた薪の嵩 北切雀

< 雪はちらつく程度のこの冬でした。用意した薪の出番の少ない、静かな火の暖炉だったのでしょう。>

- * 本当に今年は暖冬でしたね。
- * 予想外の暖冬でも、それはそれ、この写真から暖かい炉辺が想像できて、まさに備えあれば憂いなし、の安心感ですね。
- * イギリスでは環境保護のため、薪・石炭の暖房は禁止の方向です。
- * 暖冬ですね！暖房費で諸年との違いが判ります。
- * 少しほっとしている感じが含まれている気がしました。

俳句 投票数：26



庭で暖をとる「ちむにあ」

撮影：千泉

- * カット写真の「庭で暖をとる」の写真が1番好きです。すてきなストーブと燃える木がいいですね。

するめ焼く ストーブ列車の津軽弁 昼寝覚（9 票）

< 地吹雪の中を走る津軽鉄道の車内では、するめを焼くにおいが漂っていました。>

- * まず嗅覚と味覚、列車の揺れや聴覚、外の景色・・・そこに「津軽弁」のとどめ。光景が一気に立ち上がりその中にすっと引きこまれる。総身の感覚を打つ秀作です。
- * なんだかとても暖かさが感じられて、この情景の中に入りたい気持ちになります。
- * ストーブ列車って今もあるそうですね。乗ったことはないのに懐かしい感じがします。
- * するめ焼きの匂いが匂って来そうです。
- * 雪国の風情ある光景ですね。
- * 寒さに負けないたくましさを感じます。

佳作（令和2年2月号掲載順）

炬燵から現る足袋のぬくきかな 池福楼

< 寝起きに炬燵にもぐりこむ。そこには母の温もりが・・・。>

- * 情景が？足袋に触れたのかな。季重なりが惜しい。
- * 着替えの下着を、こたつで温めてくれた亡母を思い出しました。

湯湯婆（ゆたんぼ）や足でまさぐる夜明け時 準坊

< 夜中に蹴ってしまった湯湯婆を足で探す。>

- * 少し冷めてやさしい温かさを探る。
- * わかる、わかる、あの温かさともうひと眠り・・・。
- * 昔は家の中が今ほど暖かなくなり、湯たんぼを入れて寝ていました。その状況がよく出ています。
- * 年配の人なら誰しもが知っている感覚ですね。湯湯婆を布団の外に追いやってしまう事も。
- * 朝 足首に 火傷をしていたりした事を思い出しました。「や」を「を」にしたら如何。

作者より：「を」にすると説明的になってしまうので「や」で切りました。

足延ばし足で挟みし行火（あんか）かな 久芽

< 昔は炭火の行火でしたが今は電気行火しか無いですね。>

- * 暖房器具を考えると昔はひどく寒かったはず。でもそれはあまり覚えていないのはなぜ？

手袋に今日も元気で声かける 梵木

* 手袋というより《手》に今日も元気で頑張ろうと言ってるんですね。こういう励ましも有りですね。

窓際の陽だまりぬくし椅子寄せる 千泉

< ガラス越しに背中に陽を受けるのが好きです。>

- * 自分も日当たりの良い窓際で背を温めています。
- * 隣におじゃまして一緒に日向ぼっこしたいです。
- * いかにも、うつらうつらとする様子が浮かんできます。
- * お日さまのあたたかさは格別ですよ。

寒の水すんと喉を落ちにけり 北切雀

< 暖房の効いた部屋で喉が渇き、寒の水を味わう余裕もなく飲む。>

- * 兼題が直接入っていないのはやや残念ですが、言葉選びの巧みさで優れています。
- * サウナの後の一杯の水も最高ですね。

短歌

準坊

日溜まりの
ベンチ先客猫見上ぐ
遠慮がちに
吾れ端に座す



< 猫は一瞥しただけで逃げもせず又目を閉じました。 >

* 相手が猫だけにすっかり舐められましたね。

* 猫、疲れているようで気になりました。

昼寝覚

< 最近社交ダンスを習い始めました。その練習風景三題です。 >

頭上げ背筋伸ばして深呼吸 大きく踏み出しつまづくワルツ

間違えず踊る思いを胸に秘め しかめっ面してタンゴを踊る

軽快なルンバのリズムにステップを 見る人曰く麦踏みダンスか

* こんな川柳感覚の短歌も楽しいですね。

写真投稿

iSAMU



代々木上原の東京ジャーミー

* 日本にこんなきれいなジャーミーがあるとは知りませんでした。

- * 令和2年卯月4月は準坊さんから「菜の花、花菜」、皐月5月は読者FNさんから「藤、フジ」と出ています。
- * 令和2年弥生3月号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた2作品の番号を投票して下さい。
- * 句とは別に、写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら「写真いいね!」として投票下さい。
- * 投票しなかった作品へのコメントも遠慮なくお寄せ下さい。短歌、川柳也大歓迎です。
- * 令和2年3月号への投票、4月号作品への投稿の締め切りはともに4月20日です。
- * 随想、珍事報告など書き込みの他、読者さんからの写真や句の投稿、兼題提案もお待ちしています。

「写楽句会」 池福楼、iSAMU、一枝、北切雀、準坊、隅っ孤、沈丁花、千泉、久芽、昼寝覚、梵木

筆責：北切雀 校正：準坊、池福楼

写楽句会 連絡先：kinuko_thompson@hotmail.com

© 2020 Sharakukai

<http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html> または
四季の森空間 <http://isamusouma.web.fc2.com/>